

【基本方針1】子どもの主体的な参加ですすめる

1-1 子どもの権利の尊重

	施策・事業名	内容	専門部会からのコメント
1	<重点的な取組①> 子どもの権利を守る仕組みと体制の充実	アンケート調査やヒアリング調査、意見交換会等子ども・若者の意見を聞く場を設ける。 子ども・若者の意見を市の取組に反映することに努め、反映した内容などを子ども・若者に伝え、共有する。	

各課 事業 番号	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の 視点での取組実績	(5)令和7年度実績の 自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れた り反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知を どのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどの ように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、 反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をど のように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのよ うに確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反 映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
1	子ども若者 応援課	①市立小・中学校の児童生徒を対象に子どもの権利擁護委員等を講師とした出張授業を行う。 ②出張授業を行った市立小・中学校の昼の放送で子どもの権利擁護委員からメッセージを放送。 ③機関紙(ほっとルーム通信)を子どもに読みやすい内容となるよう心掛け、市内在住の全小・中学生に配布するほか、市内の高等学校や公共施設等に配布する。 ④子どもを含めた市民へ啓発品を配布し事業の周知を進める。 ⑤市報・ホームページをはじめSNS等の広報媒体を活用し、効果的な情報発信に努める。 ⑥市ホームページ(キッズページ)で子ども向けに情報発信。 ⑦子ども条例市民講座を開催するほか、ルピナスまつりなどのイベントに参加することで市民に対し広く普及啓発を行う。 ⑧子育てハンドブックに啓発のページを設ける。 ⑨普及啓発の課題を整理するため、認知度等に関するアンケートを実施する。	A:昨年度実施したアンケート結果を今年度の事業に生かしていく。 B:機関紙(ほっとルーム通信)等の作成の際は、イラストを多用するなど親しみやすい工夫をし、小学6年生までに学習する漢字を使用し漢字にはふりがなをつけて作成し、子どもの読みやすいものを目指す。 市ホームページ(キッズページ)での子ども向けにイラストなどをを用いた情報発信。 市立小・中学校の児童生徒を対象に子どもの権利擁護委員等を講師とした出張授業を行う。 ②出張授業を行った市立小・中学校の昼の放送で子どもの権利擁護委員からメッセージを放送。 ③機関紙(ほっとルーム通信)を子どもに読みやすい内容となるよう心掛け、市内在住の全小・中学生に配布するほか、市内の高等学校や公共施設等に配布する。 ④子どもを含めた市民へ啓発品を配布し事業の周知を進める。 ⑤市報・ホームページをはじめSNS等の広報媒体を活用し、効果的な情報発信に努める。 ⑥市ホームページ(キッズページ)で子ども向けに情報発信。 ⑦子ども条例市民講座を開催するほか、ルピナスまつりなどのイベントに参加することで市民に対し広く普及啓発を行う。 ⑧子育てハンドブックに啓発のページを設ける。 ⑨普及啓発の課題を整理するため、認知度等に関するアンケートを実施する。	①市立小・中学校の児童生徒を対象に子どもの権利擁護委員等を講師とした出張授業を行った。 ②出張授業を行った市立小・中学校の昼の放送で子どもの権利擁護委員からメッセージを放送した。 ③機関紙(ほっとルーム通信)を子どもに読みやすい内容となるよう心掛け、市内在住の全小・中学生に配布するほか、市内の高等学校や公共施設等に配布した。 ④子どもを含めた市民へ啓発品を配布し事業の周知を進めた。 ⑤市報・ホームページをはじめSNS等の広報媒体を活用し、情報発信を行った。 ⑥市ホームページ(キッズページ)で子ども向けに情報発信をした。 ⑦子ども条例市民講座を開催したほか、ルピナスまつりなどのイベントで普及啓発を行った。 ⑧子育てハンドブックに啓発のページを設けた。 ⑨普及啓発の課題を整理するため、認知度等に関するアンケートを実施した。	A:中学1年生を対象にアンケートを行った。アンケート結果をポスターの形にして、市立中学校に掲示を依頼する予定。 B:市立小・中学校で出張授業を行った際に昼の放送で子どもの権利擁護委員からメッセージを放送した。 C:認知度等に関するアンケートを実施した。	◎
		(6) 令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	
					(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2) (4)の内容について、次年度の課題となる内容

【基本方針1】子どもの主体的な参加ですすめる

1-1 子どもの権利の尊重

	施策・事業名	内容	子どもの評価	若者の評価	専門部会からのコメント
2	<重点的な取組②> 子ども・若者の意見表明の機会の充実	アンケート調査やヒアリング調査、意見交換会等子ども・若者の意見を聞く場を設ける。 子ども・若者の意見を市の取組に反映することに努め、反映した内容などを子ども・若者に伝え、共有する。			

各課事業番号	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
1	子ども若者 応援課	①ワイワイトーク(子ども会議)を実施し、子どもに関する市の施策について、子どもからの意見(評価)を聞く場を設ける。 ②「子ども施策に対する子どもの意見を得るための手引」の改訂をする。また手引に基づき、職員を対象とした研修を実施し、各課が子どもの意見を得る機会を設ける際の参考にしよう。	A:ワイワイトークでは、昨年度の意見を参考に今年度も開催し、日程を3日間から2日間へ短縮した。 B:市報、市SNSでの広報の他に、市立小・中学校、ASTA、及び市内高校へのポスター掲示・チラシ配付依頼など、多くの子どもに募集を認識してもらえるような広報を行った。 C:実施後アンケートやフィードバック資料への感想をもらう。 「子ども施策に対する子どもの意見を得るための手引」庁内研修のため、子どもの視点での取組評価をしていない。	①小4～18歳までを対象にしたワイワイトークを実施し、市の4つの取組(児童館、公園、公民館、図書館)に対する意見をグループで共有し、グループとして2つの取組を選び、良いところと改善点の意見をまとめた。また児童館での出張ワイワイトークも行い、より多くの子どもたちの意見を聞くことができた。 実施時期:7月27日(日)、8月2日(土) ワイワイトーク参加人数:小学生5人、中学生4人、高校生2人、大学生31人 出張ワイワイトーク参加者:65人(子ども61人、保護者4人) ②「子ども施策に対する子どもの意見を得るための手引」の改訂した。また手引に基づき、主任・主事級職員を対象とした研修を実施し子どもの意見表明についての理解を深めた。受講者数:37人 ③庁内職員への子どもの意見表明の理解促進のため、子ども条例と子どもの意見表明に関するEラーニング研修を実施。受講者数:1,538人 ④若者応援リーフレットの作成 若者を対象に今と将来に必要な情報を体系的に整理したリーフレットを作成する。作成する際、対象となる年齢層に表紙や中身に関する意見聴取を行った。 実施時期:令和7年12月、令和8年1月 参加対象:学生24人、社会人11人	A:ワイワイトークでは日程を3日間に短縮した。ワイワイトーク・出張ワイワイトークで受けた子どもの意見に対して各課からのフィードバックを行い、反映可能な内容については反映した。 反映結果は別紙参照。 B:市報、市SNSでの広報の他に、市立小・中学校、ASTA、及び市内高校へのポスター掲示・チラシ配付依頼など、多くの子どもに募集を認識してもらえるような広報を行った。直接交渉し、大学及び庁内に配架した。	◎
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2) (4)の内容について、次年度の課題となる内容	
				・ワイワイトークについては、実施時の子どもからの意見を活かし、日程を3日間に戻し、市の取組について学習する時間を設ける。 ・子どもアンケートや出張アンケート、ワイワイトーク後の市職員と参加者の意見交換会を実施する。	・ワイワイトークの広報については、SNS活用に課題が残るため、ファシリテーターの大学生と方法を検討していく。 ・ワイワイトークの実施後アンケートやフィードバック資料への感想をもらった後に、子どもたちと意見交換する時間がなかったため、次年度は「対話」ができる場を設ける。	

		(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価	
	担当課	計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし	
2	子ども若者応援課(企画政策課)	①若者ミーティング 若者の視点や行動力を市の取組に反映するため、若手職員とともに若者に求められる市の取組を検討する。	A:若者の視点や行動力を市の取組に反映するため、若手職員とともに若者に求められる市の取組を検討する。 B:若者ミーティングのこれまでの参加者や各課でのつながりを通じた案内、各種イベントでのチラシ配布、市SNSでの広報など C:次の若者ミーティングでこれまでの振り返りを実施している	・若者を対象に若者ミーティングの実施を行った。若者に求められる取組の検討にあたり、若者の視点から施策の在り方についての意見聴取を行った。意見を踏まえた制度案を提示し、制度設計における協議を行った。また、若者への情報発信については表現手法や活用媒体の選定等について意見聴取を行った。 ・若者ミーティング実施計6回 令和7年4月28日(月) 令和7年5月23日(金) 令和7年8月18日(月) 令和7年9月22日(月) 令和7年11月20日(木) 令和8年1月29日(木) ・広報(市SNS、市報、動画)実施計6回 ・利用者延べ参加人数:18名	A:若手の視点や行動力を市の取組に反映するため若手職員とともに若者に求められる市の取組を検討した。 B:若者ミーティングのこれまでの参加者や各課でのつながりを通じた案内、各種イベントでのチラシ配布、市SNSでの広報、若者ミーティングPR動画をアスタビジョンへ放映などを行った C:次の若者ミーティングでこれまでの振り返りを行った。	○ 【自己評価理由】 予定通り実施したため	
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題		
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2)(4)の内容について、次年度の課題となる内容		
				-	-		
3	企画政策課	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		①学校教育を通じた総合計画(子ども版)の普及・啓発 市内小学校において、総合計画(子ども版)を扱った授業を実施する。子どもたちに、総合計画を知ってもらうきっかけとすること、子どもたちが、まちづくりを考える一助とすること、子どもたちから「将来どんなまちにしたいか」という意見もらうこと、子どもたちの意見を次期計画策定時に活用することを目的としている。	A:子どもたちの意見を、次期計画策定時に活用する。 B:なし C:計画中	3年生を対象に市小研社会科部会の研究授業(けやき小学校)において実施 □12月3日(水) 市役所職員から市の課題を聞き、(公共施設の老朽化、空き家問題、農地の減少(農地の保全)、人口の減少など)グループで話し合う。 □12月17日(水) 各クラスの代表1グループが市長及び教育長に向けて、話し合った内容を発表する。	A:聴取した意見は、次期計画(後期計画)を策定の際に活用する。 ・フィードバック ①発表当日に代表グループに対して市長及び教育長から直接講評した。 ②後日、市長から3年生あてに手紙を送付した。 B:なし C:児童の成果発表をもって確認する。	○ 【自己評価理由】 予定通り実施したため	
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題		
				-	-		

	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価			
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし			
4	公共施設マネジメント課	①市内小学校への出前授業を実施し、『田無第三中学校周辺エリア』を子どもが学び、遊べる居場所としつつ、色々な世代の人が交流できる仕組みをグループ検討を通じて考える。	A:田無第三中学校周辺エリア構想へ反映	①田無第三中学校の1、2年生の生徒全員を対象に出前授業を実施した。また、授業実施後、タブレットを活用したアンケートにより意見を聴取した。 実施時期:令和7年12月 参加対象:1学年 112人、2学年 138人 ②武蔵野大学工学部建築デザイン学科と連携し、①の意見等を踏まえた構想の将来像(コンセプト)を若者の視点によるデザイン画を制作してもらった。 実施時期:令和7年10月、令和8年2月 参加対象:3名 ③田無第三中学校周辺エリア構想検討懇談会 田無第三中学校の建替えを契機に、周辺のまちづくりを推進し、エリア構想を作成するため懇談会を設置した。その際に、若者から委員を選定。 実施時期:令和7年6月、令和8年2月。全8回 参加対象:1名	A:田無第三中学校周辺エリア構想へ反映(①、②ともに) ②田無第三中学校周辺エリア構想を策定し、配布 ③対象エリア内の各世帯へ「懇談会だより」をポスティング	○			
			B:学校長からの要望による実施、フィードバックを通信形式で学校へ配布するとともに、キッズページで公開予定				B:①、②の取組を反映したちらしを作成し、田無第三中学校周辺市民に対してポスティングした(約1,500件×8回)。また、①は通信を作成し、キッズページへ掲載した。 ②市ホームページ ③キッズページで公開	【自己評価理由】 本事業の今年度の到達点である「田無第三中学校周辺エリア構想」へ、子ども・若者の意見等を反映し、構想の内容も想定以上の完成度となった。	
			C:なし						C:①アンケートを実施し、授業に対する感想や今後も市の取組みに参画したいか等を確認 ②市との大学連携の成果であるデザイン画を大学の学会等で紹介(予定)
			(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)						
		(1)(3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2)(4)の内容について、次年度の課題となる内容						
		「学校を核としたまちづくり」を全市的にPRするための若者参画。若者の柔軟な発想をSNSや動画に取り入れつつ、新たなまちづくりとして浸透させる。	市に様々な媒体があるが、媒体ごとにターゲットやフォロワーが異なる。また、全市的に普及啓発をするためプランディングを意識した発信が必要である。						
5	高齢者支援課	①認知症について、若年層に理解してもらうため、お祭り「オレンジフェス」を開催する。「認知症を知るきっかけ作り」「認知症の正しい理解」「認知症のある方の社会参加」をテーマに、「認知症を知るきっかけづくり」について、武蔵野大学の学生と企画・立案、実施する。	A:なし	・小学生とその保護者を対象に、認知症についての理解を深めるために、イベントの企画やプレゼントの配布 ・オレンジロバのプラバン作り、認知症を楽しく知するためのブースめぐりのスタンプラリー、ひとり歩き高齢者位置探索のGPSを使った人探し、市内小学校に発信した認知症を正しく伝える猫のキャラクター名応募による、発表と市長からの記念品授与式等 ・予定通り実施。当日、小学生から大学生の若者は、概ね400名程度来所した 実施時期:令和7年9月27日(土) 参加対象:企画の学生は4名、当日手伝いの学生は12名	A:オレンジフェス企画時から、学生独自で作成したキャラクターを使ったチラシ、ポスター、スタンプラリーカードのミニバック、缶バッジを制作。当日参加者に認知症への思いを一言付箋に貼り、大きな本を作成。その中からいくつか選び、トランプを制作。児童館・学童へ配布 チラシ、グッズ、物品の企画作成費用の支払い	◎			
			B:市内公共施設や市掲示板へのチラシ・ポスター掲示、市報・HP・SNSにて周知、市内近隣小中学校へのチラシ配布				B:市内公共施設や市掲示板へのチラシ・ポスター掲示、市報・HP・SNSにて周知、市立小学校へのチラシ配布、武蔵野大学の学生へ直接依頼、武蔵野大学の学生へ直接依頼	【自己評価理由】 ・新規で、小学生向けに認知症のキャラクター名の募集チラシを配布し、593件の応募があった。もの忘れ予防検診のラッピングバスにもキャラクターがあり、多くの小学生が関心を持ってくれた。 ・オレンジフェスで子ども向けのブースを設置し、普段の生活では聞きなれない「認知症」について、楽しく学ぶことができた。	
			C:なし						C:参加した小学生から認知症のクイズに答えてもらい「わかった!」という声や、実際に認知症の当事者から直接話しを伺い、うなずいている様子などがみられた。
			(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)						
		未定	・「認知症」について、どのように子どもの視点で、必要性を認識し、意識の改善ができるか						

	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価	
6	幼児教育・保育課	計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし	
		①保育園での日常の遊び・活動等を定める際の、園児による自由な意見交換を行う。	A:保育園での毎日の活動の決定、散歩先の決定 B:連絡帳やクラスだより等で保護者等へ報告 C:なし	日常保育における聴き取り 日常の遊び・活動等を定める際の、園児による自由な意見交換 実施時期:ほぼ毎日 参加対象:各保育園の園児数	A:日々の保育の中で実行する B:連絡帳やクラスだより等で報告 C:	○ 【自己評価理由】	
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	(1) (3) の内容から変更・追加して取組む内容 (1) の通りに実施する場合は「-」	(2)(4)の内容について、次年度の課題となる内容
						-	-
7	児童青少年課	①田無柳沢児童センターの改修について、中高生特化型児童館として機能を持たせるために、ワークショップ形式等で中高生委員に、機能案を検討予定	A:改修状況を共有しHPに掲載、田無柳沢児童センターの改修に反映 B:各児童館でポスター等掲載 C:なし	ワークショップ形式で中高生委員が田無柳沢児童センターの機能案を検討を行った。また、他市の中高生特化型児童館を視察し、運営方法や中高生の参画のモデルを学び、改修案の参考とした。 第一回 令和7年9月 第二回 令和7年10月 第三回 令和7年12月(視察) 第四回 令和8年2月	A:ワークショップを行う中で、他市の視察はとても参考になり、中高生の居場所をつくるための機能案を検討出来た。 B:児童館長たちに機能案を聞いてもらい、今後の中高生特化型児童館の発信方法を検討出来た。 C:なし	○ 【自己評価理由】機能案を考える上で、他市の視察を行い、運営方法や中高生の参画方法を参考にし、ワークショップでは多くの機能案を考えることが出来た。	
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	ワークショップで考えた機能案をもとに改修を実施する。	ワークショップで考えた機能案が児童館の改修に反映されることを発信していきたい。
8	文化振興課	①イベントの企画・運営の検討資料として、イベントの満足度等を把握するアンケート調査を行う。	A:今後の事業の実施の際に反映予定 B:イベント開催時にアンケート依頼 C:なし	・多摩六都フェア「パラアート制作ワークショップ」受講生(中・高校生)を対象に実施。 実施時期:令和7年8月~9月 参加対象:対象:圏域5市に在住・在学中・高生で障害のある方 ②「日本の文化体験フェス」 in 市民文化祭参加者(小学校1年生以上)を対象に実施。 実施時期:令和7年10月~11月 参加対象:対象:市内・在住・在勤で各体験対象年齢以上 ③「対話による美術鑑賞」事業に係る地域活動 実施時期:年2~3回 参加対象:対象:栄小学校児童・保護者・地域の方ほか ④世界でひとつ。あなただけのロゴマークを作ろう。 実施時期:令和7年8月24日(日) 参加対象:市内在住・在学の小学生・中学生	A:各事業にてアンケートを実施。事業の運営を委託している委託事業者や、市民文化祭の役員へフィードバックを行い、今後の事業実施の際に反映予定。 B:市報・市HP・SNSでの周知、市内公共施設や小中学校へのチラシ配布等 ①~④すべてイベント開催時にアンケート依頼 C:なし	○ 【自己評価理由】各事業の実施にあたり、予定通り受講生や参加者にアンケート調査を行い、関係者へフィードバックを行うことができたため。	
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	受講生・参加者全員からの回答は得られていないため、より多くの意見を聴取できるようアンケートの回答を促す。	

	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
9	スポーツ振興課	①幼少期の子どもたちに必要な動作や技能をボールを使った運動・あそびを中心に楽しく習得できるイベント「あそびバ!」を実施し、実施後にアンケートを行う。	A:今後の実施する事業へ反映	昨年度、指定管理者で実施した「あそびバ!」実施はしなかったものの、早稲田大学校友会が主催する硬式野球場や軟式野球場を春・秋・冬に「あそび場※」として開放する事業に関するチラシを市内公立小学校に配布した。 ※野球あそび、鬼ごっこ、ポッチャ等	A:普段、ボールが使用できる公園等が少ないことから、広い野球場でボール遊びができる環境は、子ども(・若者)にとっては、学生(若者)の指導のもと、のびのびボール遊びや走り回ることができる貴重な場となった。 B:事業の対象が小学生であるため、チラシを市内公立小学校に配布したことは、非常に効果的であった。 C:第2期西東京市スポーツ推進計画の施策のひとつに、「子どもスポーツ推進」を掲げており、スポーツ実施率の向上を目指しているため、こうした普段とくむことができない環境を提供することで、スポーツの楽しみを感じる機会につながることを今後も期待する。	【自己評価理由】市の事業だけでなく、こうした民間の取り組みを活用し、子ども(・若者)が主体的に活動できる場は貴重であると認識している。引き続き、大学と連携し、子ども(・若者)が楽しめる種目等を直接聞く機会を設けながら、今後の事業に生かしていきたいと考える。
			B:スポーツ施設でのチラシ配布や、スポーツセンター、総合体育館、きらっと各施設のLINEでの周知			
			C:なし			
		(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
			(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2)(4)の内容について、次年度の課題となる内容		
				-	ボールが使用できる公園等が少ないという意見もあることから、広い敷地で様々な遊びができる環境は、子ども(・若者)に取っては、生涯健康で過ごすために重要な課題と認識している。	
10	教育指導課	①(仮称)西東京市特別支援教育推進計画アンケートとして、西東京市の特別支援教育について小・中学生に聞き取る。	A:計画に反映	・西東京市立小・中学校に通う小学2年生・4年生・6年生、中学2年生を対象にアンケートを実施した。対象者6,417人のうち、4,464人の回答があった。 ・西東京市立小・中学校に通う児童・生徒に対して、「西東京市の学校生活についてのアンケート」として意見聴取を行った。 実施時期:令和7年10月から11月まで 参加対象:①西東京市立小学校の通常学級に在籍する2年生・4年生・6年生児童3,441人 ②西東京市立中学校の通常学級に在籍する2年生生徒866人 ③西東京市立小学校の特別支援学級に在籍する2年生・4年生・6年生児童123人 ④西東京市立中学校の特別支援学級に在籍する2年生生徒34人	A:子どもの意見を参考に計画を策定する。アンケート結果について調査報告書として計画策定後に公表する予定。 アンケート調査報告書として公表する予定。 B:学校を通してアンケートを周知した。 西東京市立小・中学校にて、学校を通して児童・生徒に周知 C:次期計画策定時に同様のアンケートを実施し影響を評価する予定。	【自己評価理由】アンケート内容について校長会とも調整し、小・中学生が回答しやすい設問・選択肢の設定を行った。小・中学生にアンケート趣旨を説明するために学級担任向けの説明資料を作成し学校に配布した。当初の予定通り、アンケートを実施することができた。
			B:学校を経由して周知する。(保護者へはメールで配信)			
			C:なし			
		(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				-		

	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
11	教育支援課	①スキップ教室(教育支援センター)に通室している児童・生徒に対して、スキップ教室で過ごした1年を振り返ってのアンケート調査を実施する。	A:スキップ教室の事業運営に反映させる。 B:スキップ教室指導員より対象者へ配布するため、全体周知なし。 C:なし	スキップ教室(教育支援センター)に通室している児童・生徒に対して、スキップ教室で過ごした1年を振り返ってのアンケート調査を実施した。 7月には東京都子供政策連携室からの調査協力依頼のため、教育支援センター等を利用する不登校の小学校低学年の児童に、利用している教育支援センター等の居心地、落ち着ける場所はどんな場所か、集団生活などについて一部生徒にヒアリングを行った。 ②スキップ教室での生活を振り返ってスキップ教室(教育支援センター)に通室している児童・生徒に対して、スキップ教室で過ごした1年を振り返ってのアンケート調査 実施時期:令和8年3月 参加対象:スキップ田無教室通室児童・生徒、スキップ保谷教室通室児童・生徒	A:スキップ教室の事業運営に反映させる。次年度以降のスキップ教室の事業の中で伝える。 B:スキップ教室指導員より対象者へ配布した。各スキップ教室にてスキップ教室指導員より対象者へ配布 C:なし	○ 【自己評価理由】 予定どおり実施できたため。
		(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2)(4)の内容について、次年度の課題となる内容	
				-	-	
12	地域学習推進課	①下野谷遺跡の史跡指定10周年を記念したシンポジウムの企画について意見をまとめ、シンポジウム当日の運営にも参加してもらう。 ②将来建設を考えている地域博物館に関する意見を集めるため、ワークショップを行う。詳細な手法は未定。	A:下野谷遺跡を活用した教育、まちづくりの施策や計画に反映する。構想・計画に反映 B:これまでの下野谷遺跡や文化財に関わる活動の参加団体や個人に個別声掛け、したのやムラびとへの声掛け、市報で公募 これまでの下野谷遺跡に関わる活動の参加団体や個人に個別声掛け C:なし	①記念講演「なぜ今下野谷遺跡か。パブリックアーケオロジの現在」・基調講演2本・報告3本(報告には市立小学校児童による発表も含む)・パネルディスカッション「したのや縄文の里を未来につなぐ」講師・パネラーには大学生が含まれる。 来場者数は256人であった。 ②シンポジウムは大学生による検討会を土台に企画した。シンポジウムの準備や当日の解説等も大学生が担当した。 ③二十歳のつどい実行委員会 二十歳のつどい式典への意見出し等を行う。 実施時期:9月頃~12月頃 (2ヶ月に1回程度) 参加対象:市内在住の20歳または市立小中学校卒業者で式典の参加を希望する20歳	A:若者からいただいた意見をもとに、地域博物館のあり方について、地域博物館部内PTなどにおける検討課題にあげた ③実行委員会の中で出た意見について、可能なものについては、二十歳のつどい事業に反映する。 B:SNSなどによる広報のほか、小中学校に対しては、チラシ・ポスターの掲示を依頼した。 また、下野谷遺跡現地にて、掲示板やガイドモニターによる広報を実施する。 ③市報・HP・SNS C:シンポジウム後、参加いただいた大学生等にアンケートを実施	○ 【自己評価理由】 予定どおり実施できたため。
		(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				①については、令和7年度の実施となる。	大学生に対しては大きなたがりをつけた。小中学校に対して、接点を増やしていきたい。	

	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価	
13		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れた り反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知を どのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどの ように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、 反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をど のように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのよ うに確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反 映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし	
	教育企画課	令和7年度取組予定策定時には記載していなかつ た	A:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった	・学校の適正規模に関するアンケート 小学生、中学生を対象に、小・中学校の規模(児童・生徒数 やクラス数)について意見聴取を行った。 実施時期:令和8年1月20日(火)~2月4日(水) 参加対象:市立小学校の通常学級に通学している児童(3年 生以上) 市立中学校の通常学級に通学している生徒(全学年)	A:基本方針に反映	◎	【自己評価理由】 令和7年度取組予定策定時には予定していなかった 内容を実施
			B:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった		B:なし		
			C:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった		C:なし		
		(6)令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度へ子ども・若者の 視点での取組課題	(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	
				-	-		
14	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の 視点での取組実績	(5)令和7年度実績の 自己評価	
	協働コミュ ニティ課	令和7年度取組予定策定時には記載していなかつ た	A:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった	中学校の家庭科授業で消費者教育 消費生活を題材にした家庭科の授業のカリキュラムの中で、 消費者センターから市内の消費者トラブルについて講義を実 施。講義を受け、生徒は消費者トラブルに遭わないための課 題を設定し、課題解決に向けて調べたことを班ごとに発表。 実施時期:令和8年1月~3月 参加対象:ひばりが丘中学校1年生	A:・発表時に消費者センターがコメント。 ・発表された成果物(ポスター)の一部を氏ホームページに 掲載。	◎	【自己評価理由】 令和7年度取組予定策定時には予定していなかった 内容を実施
			B:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった		B:中学校より依頼		
			C:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった		C:なし		
		(6)令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度へ子ども・若者の 視点での取組課題	-	
				-	-		
15	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の 視点での取組実績	(5)令和7年度実績の 自己評価	
	資源循環推 進課	令和7年度取組予定策定時には記載していなかつ た	A:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった	①ごみ拾いイベント 児童会・生徒会が主催となって、地域の方々のごみ拾いを実 施すると共に、環境学習を行う。 実施時期:11月(年1回) 参加対象:未就学児から80代まで120人が参加 ②資源循環サミット 高校生が西東京市の環境・資源循環、その他の問題解決に主 体的に取り組むを進める。 実施時期:令和8年3月 参加対象:市内高校5校生徒 ※重点③1-2-1子ども参画による事業運営の推進にも掲載	A:①ECO羅針盤やHPで市民周知 ②各高校に報告書で周知	◎	【自己評価理由】 令和7年度取組予定策定時には予定していなかった 内容を実施
			B:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった		B:①市報やHP ②直接交渉		
			C:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった		C:なし		
		(6)令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度へ子ども・若者の 視点での取組課題	-	
				-	-		

【基本方針1】子どもの主体的な参加ですすめる

1-2 子ども・若者の参画の推進

1-2-1 地域のシステムづくり

	施策・事業名	内容	専門部会からのコメント
1	<重点的な取組③> 子ども参画による事業運営の推進	公共施設における事業企画・運営や、子どもの利用施設における利用方法の検討などにおいて、子どもの参画の機会を推進する。 子どもの利用施設について、利用環境や事業内容等を定期的に評価し、改善提案等を行う子どもへの調査と意見反映を推進する。	

各課 事業 番号	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の 視点での取組実績	(5)令和7年度実績の 自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
1	児童青少年課	①中高生年代プロジェクトや中高生特化型児童館準備会開催し、事業企画・運営や児童館機能について検討する機会を推進する。イベント等の参画の機会や利用環境及び検討の機会を推進する。	A:事前に中高生スタッフを募集し、企画・運営を検討してもらう B:市報やHPでの広報や、学校にチラシ・ポスターを掲載を予定 C:なし	①中・高校生を対象に中高生年代イベントプロジェクトを実施。 ・概要 中学・高校生年代に対して、ダンスや音楽などの発表の場を通し様々な体験をする機会を提供する。また、中学・高校生年代の興味関心のあるゲストとのコラボレーションを図る。 ・実施日 令和8年2月11日(水)14時00分～16時25分 ・参加者 男67人、女89人、合計156人 R6 男54人、女88人、合計142人 ・出演団体 7団体(R6:5団体) ・ゲスト ゴー☆ジャス ・広報啓発 HP掲載 10月10日～公開 SNS掲載 4回投稿 市報掲載 2回掲載 高校への訪問及び実施説明 2校訪問 各施設(図書館・公民館など)へチラシ配布、ポスター掲示依頼 42か所 ②おしえて!ご意見BOX 「もっと楽しい児童館にするために」自由に、児童館への意見や要望、やってみたいことを紙に書いて、専用のPOSTに入れる。 実施時期:令和7年4月、令和8年3月、随時 参加対象:利用者誰でも ③「あそび総選挙」 行事で実施する遊びを希望し投票により選ぶ。子どもたちが希望する遊びをエントリーして、投票により選ぶ。 実施時期:投票期間:7月11日～7月19日 実施日:7月25日、参加対象:小学生90人(児童青少年課(田無柳沢児童センター)) ④子どもスタッフによるイベント「にしきたフェスタ」 発表会の場で、司会や音響照明などの役割を担い、イベントの運営を行う。 実施時期:令和7年12月、参加対象:小学5年生以上(児童青少年課(西原北児童館)) ⑤子どもスタッフによるイベント「わたあめ」づくり 参加児童自身が「わたあめ」づくりをする際の役割を担い、受付や作り方指導・片付けなど、イベントの運営を行う。 実施時期:令和8年3月、参加対象:小学4年生以上(児童青少年課(西原北児童館))	A:①事業実施にあたり、企画スタッフとして市内在住の高校生を募集。企画スタッフ主導のもとイベントの企画、運営を実施。 高校生スタッフ:17名 高校生スタッフ会議:4回実施 ②その都度、イベントなどで、意見を踏まえた内容で実施 ③人気のあそびの発表とその遊びの実施 ④役割を一緒に考え、分担し意見を踏まえた内容で実施 ⑤役割を自分で選び、意見を踏まえた内容で実施	○
		(6) 令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の 視点での取組課題	
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2) (4)の内容について、次年度の課題となる内容	
					毎年度の企画スタッフが特定の高校の生徒に偏る傾向があるため、他校の生徒にも積極的に参加を促し、より幅広い視点を取り入れる体制の構築を図る必要がある	

	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
2	幼児教育・保育課	①子どもたちの意見を反映させた園行事を実施する。	A:保育士が子どもたちから意見を聴取し、聴取した意見を反映させて園行事を実施する。 B:なし C:園行事実施後に子どもたちに意見・感想をもらう。	夏祭りのお店屋さんや出し物、運動会の種目やリレーの順番を考えるなど、子どもたちが意見を出し合い、行事を作り上げた。行事が終わった後には、感想を発表しあったり、イメージ画を作成するなどして振り返りを行った。	A:子どもたちが意見を出し合った行事を行い、達成感を味わえた。 B:なし C:頑張ったこと、楽しかったことなど発表し合ったり絵を描いたりして、振り返りを行った。	○
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2) (4)の内容について、次年度の課題となる内容	
				-	引き続き、子どもの声を聴く保育を行っていく。	
	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
3	みどり公園課	①公園施設等のリニューアルの際に、子どもも含めた利用者の意見を取り入れる。	A:説明会やアンケートにより子どもの意見を取り入れる。 B:近隣の学校や幼児保育施設への周知を行う。 C:説明会やアンケートにより子どもの意見を取り入れる。	公園名称のアンケート あたらしくできる広場の名称アンケートの実施。広場の学区の小学校・中学校にアンケートを行った。 実施時期:令和7年7月 参加対象:小学5年生、中学2年生	A:広場の開園案内のチラシに結果を記載し、学校に配布 B:直接依頼 C:確認中	○
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				-	-	
	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
4	図書館	①ヤングアダルト向け情報誌「CATCH」の共同編集	CATCHの共同編集では、お勧めの本や好きなイラスト、流行のカルチャー等について、若者の生の声を聞く機会ではあるが、市の事業企画・運営、施設における利用方法の検討などは行っていない。また、施設の利用環境や事業内容等を評価し、改善提案等を考える場でもない。あくまでヤングアダルト世代に読書の楽しさを伝える手段として共同編集を行っているため、厳密には項目に該当しないと考える。 B:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった C:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった	■共同編集会議実施 令和7年2月2日(日) 令和7年4月27日(土) 令和7年6月1日(日) 令和7年8月9日(土) 令和7年12月20日(土) 令和8年1月31日(土) 図書館発行のYA向け情報誌「CATCH」の共同編集者として、任期の当該年度の1年間会議に出席 実施時期:前年度1回及び当該年度6回 令和7年2月2日(日)、令和7年4月27日(土)、令和7年6月1日(日)、令和7年8月9日(土)、令和7年12月20日(土)、令和8年1月1日(土) 参加対象尾中学生以上20歳以下の者、6人程度で募集 中学1年生:2人 中学2年生:1人 高校1年生:2人 大学1年生:2人 計7人	A:読書の楽しみやお気に入りの本を同世代に伝えることができ、編集会議に参加して出した意見(アイディア)等が、テーマ選定や誌面構成等の参考となり「CATCH」の内容に生かす形で反映される。 参加者個別にフィードバックすることではなく、編集会議に参加して出された意見(アイディア)等は、テーマ選定や誌面構成等の参考となり「CATCH」の内容に生かす形で反映をしている。 B:図書館ホームページ掲載、市内中学校、高校に配布 図書館HP・チラシ・ポスター C:確認する予定無し	○
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				-	-	

	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価	
5	協働コミュニティ課	計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし	
		令和7年度取組予定策定時には記載していなかった	A:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった	①みらいに平和をつなぐプロジェクト 戦後80周年の節目の年に、平和を未来に引き継ぐため、1年を通じて市の平和事業の企画・運営に関わる若者を募集して、ともに事業を展開する。 実施時期:通年 参加対象:高校生・大学生世代(29歳以下の方) 7人 ②戦後80周年平和大使派遣事業 戦後80周年の節目の年に、平和を未来に引き継ぐため、中学生を広島に平和大使として派遣し、そこで学んだことを広く市民に広め、平和推進につなげる。 実施時期:事前学習会:令和7年6~7月(全2回) 広島派遣:8月5日~7日 事後学習会:令和7年8~9月(全3回) 発表会:9月14日 参加対象:中学生 8人 高校生 4人 ③WA. WA. WAプロジェクト(若者・我がまち・我がごとプロジェクト) 市民協働推進センターゆめこらぼにて、若い世代が地域に関わるきっかけづくりとなるネットワークの立上げを行う。 今年度はメンバーの企画で講演会を実施。 実施時期:9月以降 講演会:3月21日(土) 参加対象:30歳くらいまでの若者(協働コミュニティ課(ゆめこらぼ))	A:なし	【自己評価理由】 令和7年度取組予定策定時には予定していなかった内容を実施	
			B:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった		B:①チラシ、HP、SNS ②チラシ、市報、HP、SNS ③チラシ、市報、ゆめこらぼHP・SNS		
			C:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった		C:なし		
			(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	
					(1)(3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2)(4)の内容について、次年度の課題となる内容	
					-	-	
6	資源循環推進課	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		令和7年度取組予定策定時には記載していなかった ※重点②の実績と重複	A:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった	①ごみ拾いイベント 児童会・生徒会が主催となって、地域の方々のごみ拾いを実施すると共に、環境学習を行う。 実施時期:11月(年1回) 参加対象:未就学児から80代まで120人が参加 ②資源循環サミット 高校生が西東京市の環境・資源循環、その他の問題解決に主体的に取り組みを進める。 実施時期:令和8年3月 参加対象:市内高校5校生徒	①ごみ拾いイベント 児童会・生徒会が主催となって、地域の方々のごみ拾いを実施すると共に、環境学習を行う。 実施時期:11月(年1回) 参加対象:未就学児から80代まで120人が参加 ②資源循環サミット 高校生が西東京市の環境・資源循環、その他の問題解決に主体的に取り組みを進める。 実施時期:令和8年3月 参加対象:市内高校5校生徒	A:①ECO羅針盤やHPで市民周知 ②各高校に報告書で周知	【自己評価理由】 令和7年度取組予定策定時には予定していなかった内容を実施
			B:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった	重点②1-1-2子ども・若者の意見表明の機会の充実に掲載	B:①市報やHP ②直接交渉		
			C:令和7年度取組予定策定時には記載していなかった		C:なし		
			(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	
			-	-			

	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れた り反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知を どのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどの ように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、 反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をど のように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのよ うに確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反 映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
7	地域学習推 進課	令和7年度取組予定策定時には記載していなかつ た	A:令和7年度取組予定策定時には記載していなかつた B:令和7年度取組予定策定時には記載していなかつた C:令和7年度取組予定策定時には記載していなかつた	下野谷遺跡史跡指定10周年シンポジウム 下野谷遺跡の史跡指定10周年を記念したシンポジウムの企 画について意見をまとめ、シンポジウム当日の運営にも参加 してもらう。 実施時期:ミーティング:6月、12月 パネルディスカッション:12月21日(シンポジウム当日) 参加対象:大学生11名	A:シンポジウムの聴講記録集、今後の企画事業をHP等で広 報 B:・これまでの下野谷遺跡や文化財に関わる活動の参加団 体や個人に個別声掛け ・したのやまうびとへの声掛け ・市報で公募 C:なし	◎
		(6)令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度への子ども・若者の 視点での取組課題	【自己評価理由】 令和7年度取組予定策定時には予定していなかつた 内容を実施
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2) (4)の内容について、次年度の課題となる内容	
				-	-	
8	選挙管理委 員会事務局	令和7年度取組予定策定時には記載していなかつ た	A:令和7年度取組予定策定時には記載していなかつた B:令和7年度取組予定策定時には記載していなかつた C:令和7年度取組予定策定時には記載していなかつた	①市内学校への出前授業 【選挙講座】 選挙について学んでみよう 実施時期:2026/2/20 参加対象:文華高校2年生 約50名 ②市内学校への出前授業 【選挙講座】 選挙について学んでみよう 実施時期:2025/12/15 参加対象:田無特別支援学校 約40名	A:出前授業 B:なし C:なし	◎
		(6)令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度への子ども・若者の 視点での取組課題	【自己評価理由】 令和7年度取組予定策定時には予定していなかつた 内容を実施
				-	-	

【基本方針1】子どもの主体的な参加ですすめる

1-2 子ども・若者の参画の推進

1-2-1 地域のシステムづくり

	施策・事業名	内容	専門部会からのコメント
2	<重点的な取組④> まちづくり活動の機会の充実	事業企画・運営において、子ども・若者の参画を推進する。まちづくり活動への参画を促すため、地域の自主的な活動の情報提供及び活動の場の提供などを行う。オンライン上でのつながりを含む若者の地域活動への参加促進や若者の活動団体との連携を図る。	

各課事業番号	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
1	協働コミュニケーション課	①市民協働企画提案事業U29チャレンジ部門補助金などを通じて、子ども・若者の自主的な活動を後押しするとともに、地域への参画を促す。市民協働推進センターゆめらぼを通じて、若者の交流事業や活動団体の支援を実施する。	A:U29チャレンジ部門では、子ども・若者の提案を市が協働、サポートして事業化する B:学校へのチラシ等の配布 C:U29チャレンジ部門では企画に関わったスタッフへのアンケートも実施し、制度のあり方や市の対応についての意見を確認している。	主なメンバーが29歳以下で3人以上の団体を対象に、事業の企画を募集し、補助金を支給した。提案事業の実施にあたっては、市及び市民協働推進センターゆめらぼがサポートを行った。 9団体から応募があり、5団体が採択となった。 実施時期:募集4月21日(月)~5月31日、事業実施令和7年7月~令和8年2月	A:庁内の29歳以下の職員及び若者ミーティングのメンバーに、応募事業についてアンケートを行い、審査の参考にした。 B:市報や市ホームページ・SNSへの掲載のほか、市内の学校へチラシの配布、情報提供を行った。 C:団体メンバーへアンケートを実施し、事業や市の対応について意見をもらった。	○ 【自己評価理由】 子ども・若者のやりたい事業の企画を概ね予定どおり実施できたため。
		(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2) (4)の内容について、次年度の課題となる内容	
					特になし	
2	公民館	①中学生が企画する小学生向け防災講座を実施する。説明会・準備会・企画会議を実施し、講座のテーマや内容・運営について公民館がバックアップする形で全て中学生の話し合いにより決定する。	A:説明会・準備会・企画会議を実施し、講座のテーマや内容・運営に反映 B:近隣の中学校(4校)にチラシを配布する。 C:講座実施後に振り返りの回とアンケートを実施する。	・中学生を対象に、小学生向けの防災講座を企画し実施した。 ・講座は3回。その他に説明会2回、企画準備会7回を実施。 ・公民館だよりでの広報のほか、ポスター、チラシ、市ホームページで情報発信した。 ・講座の参加者は延べ72人。中学生ボランティア10人、高校生ボランティア11人。	A:2回の講座終了後、ふりかえりを実施。第3回では企画から実施までのプロセスと成果を地域の大人に向けて発表した。 B:募集チラシを近隣の中学校に直接配布した。 C:アンケートのほか、講座終了後に全体の振り返りをして意見を述べ合った。	◎ 【自己評価理由】 20人以上の中学生が講座を企画運営し、その成果を地域の方たちへフィードバックできた。その反響は良く、企画側も参加者側も満足度の高い事業となったため。
		(6)令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				講座として実施はしないが、令和8年度の谷戸まつりでワークショップを行うなど、講座でできた関係性を継続する取り組みを行う。	この講座から生まれた中学生ボランティアの活躍の場をどのように創出し、次の展開に進めていけるかが課題。	

【基本方針2】 おとなになることを支える

2-1 心身及び経済的な自立

	施策・事業名	内容	専門部会からのコメント
1	<重点的な取組⑤> 子ども自身が相談しやすい体制の充実	子ども相談室 ほっとルーム、いこいな窓口@西東京(子どもLINE相談)などの子どもが気軽に相談できる環境の充実に努める。子どもの認知度があがるように広報活動を強化する。	

各課事業番号	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価	
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし	
1	子ども若者 応援課	①子ども相談室 ほっとルームにおいて、子ども自身が相談しやすい体制として、フリーダイヤルによる電話相談や市のお問い合わせフォームを活用したインターネットによる相談システムを実施する。ほか ②手紙、FAX、切手を貼らずに郵便ポストに投函できるほっとルームレターを実施する。 ③市立学校、児童館での出張ほっとルームを実施する。 ④出張授業を行った市立小・中学校の昼の放送で子どもの権利擁護委員からメッセージを放送する。 ⑤市報・ホームページ(キッズページを含む)をはじめSNS等の広報媒体を活用し、効果的な情報発信に努める	A:前年度のアンケート・ヒアリング結果などをもとに、市全域でほっとルームレターによる相談を開始し、ほっとルームレターのデザインや説明文についても子どもの意見を反映して作成する。 今後、ほっとルームレターの学校内での設置場所についてアンケートを実施し、意見を取り入れる予定。 B:子ども相談室と子どもLINE相談について、ホームページ(キッズページ)で子ども向けに情報発信を行う。ブランディングエリアに子どもに親しみやすいイラストを用いて掲載したり、子どもLINE相談のポスターの周知、ほっとルームレターの使い方の記事の掲載をした。 機関紙(ほっとルーム通信)等の作成の際は、イラストを多用するなど親しみやすい工夫をし、小学6年生までに学習する漢字を使用し漢字にはふりがなをつけて作成することで子どもの読みやすいものを目指す。 教育委員会と連携し、GIGAスクールタブレットの壁紙への子ども相談室 ほっとルーム及び子どもLINE相談の情報掲載し、子どもからデザイン募集した子どもLINE相談のポスター掲示を市内の小・中・高等学校、市内図書館等に依頼した。 アスタビジョンで子ども向け周知動画を放映した。 C:年度末にアンケートを実施し、次年度以降の事業に生かしていく。	①子ども相談室 ほっとルームにおいて、子ども自身が相談しやすい体制として、フリーダイヤルによる電話相談や市のお問い合わせフォームを活用したインターネットによる相談システムを実施した。 ②手紙、FAX、切手を貼らずに郵便ポストに投函できるほっとルームレターを実施した。 ③市立学校、児童館での出張ほっとルームを実施した。 ④出張授業を行った市立小・中学校の昼の放送で子どもの権利擁護委員からメッセージを放送する。 ⑤市報・ホームページ(キッズページを含む)をはじめSNS等の広報媒体を活用し、効果的な情報発信に努める	A:前年度のアンケートやヒアリング結果などをもとに、市全域でほっとルームレターによる相談を開始した。ほっとルームレターのデザインや説明文について子どもの意見を反映して作成した。 B:出張授業を行った市立小・中学校の昼の放送で子どもの権利擁護委員からメッセージを放送した。 子どもの居場所である市立学校、児童館に向いて出張ほっとルームを実施した。 C:年度末にアンケートを実施した。	◎	
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題		
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2) (4)の内容について、次年度の課題となる内容	子どもの認知度を上げるため、周知の方法を検討する。	
2	子ども家庭 課	①ヤングケアラーの啓発 ②小中学生保護者向けチラシの作成と配布	A:ヤングケアラーの普及啓発動画は市内の中学生と共同作成し、子どもの意見を取り入れる。 B:相談先の周知 C:なし	①-1(市内公立小・中学生向け)ヤングケアラーの相談先及び家事や家族のお世話の例を記載したカードを作成し、7月に小学校4年生から中学校3年生を対象に配布した。 ①-2(教員向け及び関係機関向け)ヤングケアラー・コーディネーター設置と相談案内を記載したリーフレットを作成し、市内の公立小中学校及び町内関係機関、基幹相談支援センター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所分科会、民生児童委員、医師会・歯科医師会に配布した。 ①-3(ヤングケアラー啓発動画の作成)11月に市公式HPで公開し、1月にアスタビジョンでショートバージョンを放映した。 ②小中学生保護者向けチラシ 夏休み明けのタイミングで、市内小中学校の全校生徒に向けて配布(およそ14300枚)	A:啓発動画の作成にあたり田無第二中学校と連携した。美術部に動画のイラストの作画を依頼したことで、子ども視点で内容がわかりやすい動画が作成できた。 B:(ヤングケアラーの普及啓発)子どもの手元に残りやすいよう、名刺サイズのカードで作成した。 (小中学生保護者向けチラシ)児童虐待・ヤングケアラーの理解を促すため、小・中学生児童・生徒でも目で見えるイラストと言葉で表現し、フルカラー印刷で作成、配布した。 C:なし	◎	
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題		
						影響をどのように確認するか検討する必要がある。	

【基本方針2】 おとなになることを支える

2-1 心身及び経済的な自立

	施策・事業名	内容	専門部会からのコメント
2	<重点的な取組⑥> 若者の相談支援体制の充実	若者が抱える不安や悩みを相談しやすい体制を充実させ、適切な支援や関係機関につなぐ連携体制の強化を図る。また、相談機能の充実や、相談支援体制の周知を行う。	

【各課事業内容の個別表】

各課事業番号	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
1	地域共生課	①自立相談支援事業 経済的な問題や生活していく上でのさまざまな問題を抱えた方の相談をお受け、各種サービスなどの情報を提供します。	A:相談を通じて、相談しやすい体制について意見を聞き、支援体制を検討する B:ホームページ、イベントなどで相談窓口の周知 C:若年層の相談件数、相談内容を把握する	自立相談支援事業 生活に困った相談者の話を傾聴しながら問題の解決に向けて一緒に考え、相談者の意思を尊重し、寄り添いながら支援をすることが出来ている。状況に応じて家計改善支援や就労準備支援・個別就労支援・住居確保給付金の申請・債務整理のため弁護士事務所へ繋ぐなどの対応を行った。	A:相談を受ける中でもすぐに支援につながらない場合でも、またいつでも相談に乗ってほしい旨の声掛けとチラシに担当者を記載し、相談しやすい状況になるよう心掛けた。 B:市報・SNS(LINE・X)や公共施設への配架・子ども若者の居場所・市民まつり・まちづくりフェスを通じて相談窓口の周知を行うことが出来た。 C:「相談受付・申込票」に年齢・相談内容のチェックを付けてもらうことで各件数の把握が出来ている。	○ 【自己評価理由】 相談者に寄り添い、必要な支援に繋げることが出来ている。また、すぐに支援に繋がらない場合でも、また相談してもらえるようチラシを渡すことが出来ている。今後も継続していく。
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2) (4)の内容について、次年度の課題となる内容	
				-	困り事の相談＝「福祉丸ごと相談窓口」となるよう広報をしていきたい。	
2	健康課	①若年向けLINE相談 ②からだと心の健康相談	A:LINE相談登録者アンケートの実施により意見聴取を行う。 B:広報物のデザインの工夫 C:LINE相談登録者アンケートの実施により意見聴取を行う。	①若年向けLINE相談 ・18歳から39歳を対象にLINEを使用した相談事業を年間125日実施。 ・LINE相談登録者にはアンケートにより、相談事業についてのアンケート調査により意見聴取を実施。より多くの意見を聴取できるよう回収期間を前年度より2週間延長して行った。 ・LINE相談広告を、デザイン会社へ委託し、新しいデザインを15種類新規作成。9月と3月にはなバス広告を掲載。若年健診者にLINE相談啓発品を配布した。また、協働コミュニティ課企画の虹の架け橋プロジェクトに応募し、武蔵野大学学生を中心としたNPO法人スタジオmofeと自殺対策啓発動画を共同製作した。作成した動画は、市民課デジタルサイネージ、田無アスタヴィジョンで放映した。 新規友達登録者数数は年間800人を達成した。 ②からだと心の健康相談 ・市内の学習スペースにからだと心の健康相談啓発品を配布。	A:年度末アンケート結果で、利用者が相談したくなる曜日に臨時相談日を設定した。若年検診時に啓発品を配り、ほとんどの方が受け取り、「かわいい」など好意的な反応があった。 B:自殺対策啓発動画は、武蔵野大学学生と意見交換し、絵コンテ作成し、動画を製作した。 C:C:令和7年度末にアンケートを実施。友達登録をしようと思った理由について「SNSなら相談しやすい」と答えた方が多かった。また、アンケート回答者の85%の方が、「絶対また利用する・多分利用する」と回答した。	◎ 【自己評価理由】 ・協働コミュニティ課企画の虹の架け橋プロジェクトに応募し、学生の意見をを反映させた自殺対策動画を新たに製作することができた。 ・啓発品の配布先に、若者が足を運ぶ場を選定し、効果的に広報できた。
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度へ子ども・若者の視点での取組課題	
				年度末のLINE友達登録者対象のアンケートとは別に、LINE相談直後のサービス利用者満足度アンケートの実施を今年度から開始予定	LINE相談事業の普及啓発	

	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価	
3	子ども若者 応援課	①庁内の若者が利用できる相談窓口について情報収集し、庁内連携体制を検討する。	A：予定なし。	①若者応援ホームページ 若者（16歳からおおむね29歳まで）向けのイベント（地域活動やまちづくり活動など）や自由に過ごせる居場所、学習機会に関する情報発信を充実させるために、若者支援に関するホームページを作成した。	A： ①…実施なし。 ②…掲載情報、レイアウトなどについて意見を聞き取り、完成品を渡した。	○	
			B：庁内の相談窓口について情報収集し、窓口まとめたものを市報、市ホームページ、SNSを利用し、若者に広報する	②若者応援リーフレット 若者は、必要な情報を自分で探さなければならないが、その情報がどこにあるのかわからないことや必要になった時に調べることが多い。 そのため、若者を対象に今と将来に必要な情報を体系的に整理したリーフレットを作成する。	B： ①市SNSによる周知のほか、市内掲示板、市内の高校・大学へのポスター掲示を行った。 ②文化施設、ゆめこらぼ、市内高等学校、市内大学、まちてなにリーフレットを配架した		【自己評価理由】 若者への意見聞き取り、フィードバックは実施したが、次年度に向けた意見の聞き取りを実施できなかった。
			C：広報の際に、アンケート回答URLを示し、若者からの意見を収集する予定		C： ①…実施なし。 ②…実施なし。		
	(6) 令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題			
					現状のHPやリーフレットに対する意見の聞き取り		

【基本方針2】 おとなになることを支える

2-2 他者への理解とおとなの役割

	施策・事業名	内容	専門部会からのコメント	
1	<重点的な取組⑦> 地域行事等の活性化により子ども・若者参加の推進	市民まつり、市民文化祭、市民スポーツまつり、地域でのまつり、市民が企画運営主体となるイベントなどを活性化し、子ども・若者が地域と関わり、参加できる機会を増やす。		

各課事業番号	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
1	児童青少年課	①企画運営主体となる行事や地域でのまつりを実施し支援する。	A:中高生年代プロジェクトやむくのきまつり等、地域と連携しながら企画・運営に参加してもらう B:市報・HPを中心に、学校でのポスター掲載や児童館だより等による広報 C:なし	中高生年代プロジェクトやむくのきまつり等において、地域団体と連携しながら、子ども・若者が企画・運営に参加する機会を提供した。 【中高生年代プロジェクト】 ・スタッフ会議(計4回) 【むくのきまつり】 ・子ども会議(計6回)	A:中高生スタッフを始め若者が前日準備・当日の運営を地域の方々で協力しながら行った。 B:市報・HPを中心に、児童館のおたよりにて広報を実施した。 C:なし	○ 【自己評価理由】 小学生から若者の世代まで楽しみにしている事業で、積極的に参加していた。地域の方々も含めて幅広い世代が交流できた。
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	
				(1) (3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2) (4)の内容について、次年度の課題となる内容	
				-	参加者が多いプログラムもあり、時間調整等を含め検討が必要である。	
2	文化振興課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価
		①市民まつりに関して、西東京市民まつり実行委員会と連携して「子どもゾーン」を設置し、子ども達がより楽しめる取組とする。 市民文化祭において、西東京市民文化祭実行委員会と連携して日本の文化体験フェスなど子どもも対象として文化芸術に触れる機会を設ける。	A:日本の文化体験フェスでは参加者アンケートを通じ子どもへの影響を確認する。 B:まつり・文化祭への学生ボランティアの募集や、パンフレット、チラシの表紙絵の募集を学校を通じて子どもに行い、イベント自体への関心も持ってもらえるよう周知を行う。 C:日本の文化体験フェスでは参加者アンケートを通じ子どもへの影響を確認する。	・市民文化祭において、西東京市民文化祭実行委員会と連携して日本の文化体験フェスなど子ども(小学校1年生以上)も対象として文化芸術に触れる機会を設けることができた。 ・市民まつり・市民文化祭への学生ボランティアの参加や、パンフレット、チラシの表紙絵の募集を学校を通じて子どもに行い、イベント自体への関心も持ってもらえるよう周知を行うことができた。 ・日本の文化体験フェスでは参加者アンケートを通じ子どもへの影響を確認することができた。	A:各事業にてアンケートを実施。市民文化祭の役員等へフィードバックを行い、今後の事業実施の際に反映予定。 B:まつり・文化祭への学生ボランティアの募集や、パンフレット、チラシの表紙絵の募集を学校を通じて子どもに行い、イベント自体への関心も持ってもらえるよう周知を行った。 C:各事業にてアンケートを実施した。	○ 【自己評価理由】 各事業の実施にあたり、予定通りアンケート調査等を行い、関係者へフィードバックを行うことができたため。
		(6) 令和6年度からの事業変更点(変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定(各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	
				-	より多くの意見を聴取できるようアンケートの回答や学生ボランティアの参加等を促す。	
		-				

	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価	
3	担当課	計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れた り反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知を どのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどの ように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、 反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をど のように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのよ うに確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反 映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし
	スポーツ振 興課	①体育の日に市民スポーツまつりを開催し、運動 会やスポーツ体験、親子で楽しめるイベントな ど、幼児から高齢者まで多くの市民にスポーツ を楽しめる機会を提供する。	・パン取り競争や宝探しなどの運動会種目の実施や、 チャレンジコーナーでのスポーツ体験など、子どもや若 者が気軽に参加してスポーツが体験できる取り組みを実 施する B: C:	スポーツの日(10/13)に市民スポーツまつりを開催 ・幼児から高齢者まで幅広い世代が楽しめる種目を取り入れ て実施した。 ・開催にあたり、市報、ホームページ等で広報し、新型コロ ナウイルス感染症の流行前の参加数にもどりつつある。	A:開催するに当たっては、実行委員会形式で実施して おり、子ども(若者)が所属する各競技団体からの委員も おり、意見を反映できる体制になっている。実施日につ いては、例年、スポーツの日に開催するというので、予定が 立てやすく参加に繋がること、種目については、基本的に 例年と同じ種目を実施することで、前年との記録を比較し やすいようにし、子ども(若者)の運動能力が確認でき ることなど、多くの子ども(若者)の参加に繋がっている。 B:各スポーツ施設でのチラシ掲示や市内公立小・中学校 にもチラシを配布し、周知を図っている。また、体育協会 に所属する各競技団体(少年野球等)のチームを通じて事 業開催の周知を図っている。 C:第2期西東京市スポーツ推進計画の施策のひとつに、 「若い世代のスポーツを通じた地域参加の機会の充実」を 掲げており、スポーツまつりはその事業のひとつとなっ ており、第2期西東京市スポーツ推進計画においても進捗 (指標)を管理している。	○ 【自己評価理由】 スポーツまつりは、新型コロナウイルス感染症の流 行を受け、参加者が減少しましたが、第5類に指定 されてからは、流行前の参加者数に戻りつつあり、 引き続き、子ども(若者)が参加につながる事業を 検討する必要がある。
		(6)令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度への子ども・若者の 視点での取組課題	
				(1)(3)の内容から変更・追加して取組む内容 (1)の通りに実施する場合は「-」	(2)(4)の内容について、次年度の課題となる内容	
				-	まつり自体がマンネリ化してきているので、第2期西東京市 スポーツ推進計画において明記している指標に近づく内容に するため調整が必要である。	
4	担当課	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の 視点での取組実績	(5)令和7年度実績の 自己評価
	協働コミュ ニティ課	①市民協働企画提案事業U29チャレンジ部門補助 金、自治会・町内会等活性化補助金等を活用し、 子ども・若者が参加、参画できるイベントを増や していく。	A:U29チャレンジ部門では、子ども・若者の提案を市が 協働、サポートして事業化する B:学校へのチラシ等の配布 C:U29チャレンジ部門では企画に関わったスタッフへの アンケートも実施し、制度のあり方や市の対応につ いての意見を確認している。	市民協働企画提案事業U29チャレンジ部門補助金では、主なメ ンバーが29歳以下で3人以上の団体を対象に、事業の企画を 募集し、補助金を支給した。提案事業の実施にあたっては、 市及び市民協働推進センターゆめこらぼがサポートを行っ た。9団体から応募があり、5団体が採択となった。 また、自治会・町内会等活性化補助金を活用し、こどもまつ りや凧揚げなどの地域のイベントや、ハロウィン、クリスマ スなどの季節行事が開催され、子ども・若者が地域活動に参 加する機会が提供された。	A:市民協働企画提案事業U29チャレンジ部門補助金では、 庁内の29歳以下の職員及び若者ミーティングのメンバーに、 応募事業についてアンケートを行い、審査の参考にした。 また、自治会・町内会等活性化補助金では、自治会・町内 会等が主体的に地域活性化のため事業に取り組む中で、子 ども・若者の意見を反映する方法が検討されている。 B:市民協働企画提案事業U29チャレンジ部門補助金では、 市報や市ホームページ・SNSへの掲載のほか、市内の学校へ チラシの配布、情報提供を行った。 また、自治会・町内会等活性化補助金では、イベントの広 報について地域掲示板やチラシ配布など、地域のコミュニ ティのなかで行われ、地域住民の親子や子どもへの参加促進 を図る工夫が施された。 C:市民協働企画提案事業U29チャレンジ部門補助金では、 団体メンバーへアンケートを実施し、事業や市の対応につ いて意見をもらった。 また、自治会・町内会等活性化補助金では、それぞれの自 治会・町内会等がアンケートや意見収集など、実施状況に 応じて対応されている。	○ 【自己評価理由】 市民協働企画提案事業U29チャレンジ部門補助金 では、子ども・若者のやりたい事業の企画を概ね予定 どおり実施できたため。 また、自治会・町内会等活性化補助金を活用する ことで、地域主体のイベント運営を支援し、子 ども・若者の参加促進につながった。
		(6)令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7)令和6年度からの課題	(8)令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9)令和8年度への子ども・若者の 視点での取組課題	
				-	市民協働企画提案事業U29チャレンジ部門補助金では、特 になし。 また、自治会・町内会等活性化補助金では、自治会や町内 会による主体的な事業を支援し、子ども・若者が参加しやす い地域活動の機会を広げる。	

	(1)各課事業内容	(2)子ども(・若者)の視点での取組予定	(3)令和7年度事業取組実績	(4)令和7年度 子ども(・若者)の視点での取組実績	(5)令和7年度実績の自己評価	
	担当課	計画開始年度(令和7年度)時点の事業内容 A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見を取り入れたり反映する予定があるか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行う予定か C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認するか	各課事業内容の実施詳細を記載	A:事業実施にあたり、子ども・若者の意見をどのように聞き、反映したか B:子ども・若者に事業を知ってもらうために、広報・周知をどのように行ったか C:この事業を行うことによる子ども・若者への影響をどのように確認したか	「◎」:予算の新規計上、拡充、子ども・若者の意見を反映させた事業実施ができた 「○」:予定どおり実施できた 「△」:予定していた一部が実施(達成)できた 「×」:実施しなかった 「-」:当該年度に事業予定なし	
5	地域学習推進課	①したのや縄文の里秋まつり ②市内小学校や大学、地元商店会など地域団体と積極的な協働を図り、地域全体の協力の下でのイベント充実を目指す。	A:イベント実施の際にアンケート調査を実施し、今後の方向性の参考にする。 B:広報の充実を目指し、市報や各種SNS、掲示板のほか、市内の全小・中学校にチラシ・ポスターを配布し、若年層への周知に力を入れる。 C:イベント実施の際にアンケート調査を実施し、今後の方向性の参考にする。	①下野谷遺跡が国史跡に指定されてから10周年の記念の年として、下野谷遺跡や縄文に関するグッズの販売を行った。また、小中学生で構成されたコスボジョムンズによるしたのや縄文体操♪や、大学生によるブースが開設された。参加者約1,300名であった。 ②早稲田大学考古学研究会といった、大学生の若者らに縄文に関するブースを出していただき、秋まつりを充実させた。 ③市内小学校に積極的に広報を行い、特に下野谷遺跡近隣の東伏見小学校には全校児童に対してチラシを配った。	A:秋まつりにおけるアンケートを実施し、今後の方向性の参考として、参加者に対してフィードバックを実施した。 B:広報の充実を目指し、下野谷遺跡の周知として、ポストカードや、しーたとのーやといったキャラクターのシールを配布した C:イベント実施の際にアンケート調査を実施し、今後の方向性の参考にする。	○
		(6) 令和6年度からの事業変更点 (変更・追加など)	(7) 令和6年度からの課題	(8) 令和8年度事業取組予定 (各課事業内容からの変更点等)	(9) 令和8年度への子ども・若者の視点での取組課題	【自己評価理由】 予定どおり実施できたため
				(1) (3) の内容から変更・追加して取組む内容 (1) の通りに実施する場合は「-」	(2) (4) の内容について、次年度の課題となる内容	
			①したのや縄文の里秋まつり20回記念として、横断幕の設置などによる充実を目指している。	若年層への周知に力を入れるために、しーたとのーやといったキャラクターの周知にさらなる力をいれ、各校にしーたのーやリーフレットを配布予定		